

薬害教育の実践例について

令和元年度に実施された薬害に関する授業の実践事例は以下のとおりです。実践事例集本体とともに令和元年度の事例も授業実施の参考として是非ご活用ください。

◆実施校：池田町立池田中学校

【対象学年】中学3年生 ※講演のみ全校生徒を対象

【教科等】社会科（公民的分野）「消費生活と経済」

【学習の目的】薬害を起こさない社会のあり方や、自ら医薬品を消費する者として何をすればよいかを考える。

【授業の流れ】

全校集会：「薬害による被害の実態を知ろう」

○増山ゆかり氏（（公財）いしずえ サリドマイド福祉センター）による講演を実施（全校生徒を対象とした人権集会におけるプログラムの一つとして実施）

1 時間目：「なぜ薬害は起き、被害が拡大したのだろうか」

○全校集会の内容を復習し、サリドマイドによる胎児の障害について説明。

○「なぜ、薬害は起き、被害が拡大したのだろうか」を課題として、薬の販売から、被害発生、回収措置に至るまでを記した年表や、被害者数の推移を示した資料等をもとに、行政の対応や制度の問題点を考える。

2 時間目：「薬害を起こさない仕組みを考えよう」

○「薬害を起こさないために、どのような仕組みにすると良いだろうか」を課題として、医薬品をめぐる関係図（国、医療機関・薬局、製薬会社、国民）をもとに、グループで議論。

○薬害を起こさないためには、企業や医師等の関係者間で副作用情報等の情報を広く共有することが大切であり、幅広い情報共有を可能にするための、PMDA等の役割を紹介。

3 時間目：「消費者としての在り方を考えよう」

○医薬品が消費者に届くまでの経路を知り、「医薬品が消費者に届くまでに、薬害を防ぐ工夫ができないだろうか」を課題として、グループで議論する。

○最後に、サリドマイドの当時の宣伝広告を紹介。消費者としてどう行動するとよいか考える。

【授業を受けた生徒の感想（一部）】

- ・薬害という言葉を知った。
- ・薬害を防ぐために一番大事なことは「情報」なのではないかと思った。

◆実施校：長崎日本大学中学校

【対象学年】 中学 1 年生

【教科等】 道徳（公正、公平、社会正義）

【学習の目的】

○被害者の声を聴くことで、被害に苦しんでいる人に共感するとともに、薬害などの人災を繰り返さないようにするためにはどうしたらよいかを考えることを通して、周囲の状況に流されることなく正義と公正を重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする道徳的判断力を育てる。

【授業の流れ】

○母子ともども C 型肝炎に感染した被害者の映像を視聴し、自分にも起こりうる出来事、として生徒にとらえさせ、自分の身に置き換えたらどのような気持ちになるかを考えさせる（10 分間）。

○「薬害を学ぼう」の p 5、6 にある薬害発生についての説明から、各関係者の果たすべき役割を確認する。その上で、以下の手順で考えさせる。（30 分間）。

- ① 教師が作成した各関係者がそれぞれの役割を果たせていないストーリーを生徒に演じさせる。
- ② なぜ、そのような状況になってしまったのか、その背景を考えさせる。その際、各関係者がそのような状況になるまでにどのような葛藤があったのかを想像させる。
- ③ 考えたことを発表させ、その上で社会正義を実現することの難しさとともに、そのような状況でも正しい判断や行動をするためにはどのようなことが大切なのかについて話し合う。

○本時の学習を振り返り、どのようなことを学んだのかを考えさせ、発表させる。（10 分間）

【授業を受けた生徒の感想（一部）】

○ロールプレイにより、それぞれの役割を果たすことの重要性に気が付いた感想
・どの役にも薬害を防ぐために改善できるところがあると気づいた。他人事と思わず、自分も関係があると思って生活したい。